

令和元年度第3回舞鶴市子ども・若者支援会議 議事録（概要）

日時：令和元年12月23日（月）

午後1時30分～午後3時00分

場所：舞鶴市役所 中会議室（別館5階）

1 出席者・欠席者：別添、委員名簿のとおり
事務局：舞鶴市健康・子ども部、教育委員会教育振興部

2 議事等

(1) 開会

(2) 議題

①第2期「夢・未来・希望輝く『舞鶴っ子』育成プラン」（素案）について

②今後のスケジュールについて

③その他

(3) 閉会

(1) 開会

（会長）

民生児童委員連盟の委員については、改選のため今回欠員となり、新たな副会長の選任については次回すべての委員がそろった時に私から選任させていただくということをご了承いただきたい。

今回の会議については、過半数の出席があるので、舞鶴市子ども・若者支援会議条例第7条により、会議の成立を報告させていただく。

【質疑・意見等】

(2) 協議事項

①第2期「夢・未来・希望輝く『舞鶴っ子』育成プラン」（素案）について

資料に基づき、事務局より説明

（委員）

20ページにSDGsが載っているが、子育てとの関連はあるか。関連性を具体的に書くべきでは。

また、22ページの「将来にわたっての安心基地」とあるが、なぜ「基地」という言葉なのか。

また、「アウトリーチ」など、横文字が多く出てくる。多世代の方が読まれるので、注釈をつけていただけるといい。

39ページ、主な取り組みの「性別に捉われない子育て等に関する意識の普及・啓発」では、ジェンダー教育に当たると思うが、大切な事なので一文をどこかに入れていただけないか。パパママになってからではなく、も

っと小さいうちから教育したほうがよいのではないかと思う。

(事務局)

まず SDGs について。子ども子育て計画の策定期期に来ており、他の市町村についても SDGs の考えを子ども子育て計画に盛り込み始めている。計画の施策を全て展開する上で、SDGs（持続可能な開発目標）を根底に踏まえた施策展開になっているという意味合いで掲載している。

Society5.0 に、具体的に共生型の子育て支援が出てくるが、その取り組みの一環として捉えていただければと思う。広い概念のため、ピンポイントでお答えできないが、このような趣旨で今回初めて計画に掲載させていただいた。

安心基地について、親子の信頼関係の核になることを表す言葉として使用した。さらに良い表現があれば変更していきたいと考えている。

用語の関係については、73 ページに「計画策定の体制・経過」と「用語説明」を入れる予定にしている。

39 ページのジェンダーについては、前回いただいた意見を踏まえて意識をしていたが、計画として大まかに書く中で「平等」として今の形に収めているところである。

(委員)

根底として SDGs の意識があることは理解した。SDGs を入れることは良いが、せっかく入れるのであれば、2030 年までに国際的な目標がある上で、これからの舞鶴の子育てにも大きな目標があることを書き込んだほうが良いのではないか。

(事務局)

21 ページに施策の体系図があり、施策体系の施策ごとに 17 の開発目標を割り当てる表を作成する予定にしていたが、内容が深くなっていく中で、どこで収めるか検討して今の形となった。今頂いた意見を元に内部で話し合い、盛り込むか盛り込まないか検討していきたい。

(委員)

ターゲットまで来ると、発展途上国等の話にまでなってくるので、17 のゴールまででよいと思うが、合致するところを書いていただけると、密接な関係があり、舞鶴市が目指しているところがわかり良い案になると思う。

(会長)

一般的に見て理解しがたいところもあるかと思う。書物によっては解説欄を設けているものもあり、十分に反映できない場合にはそのような方法もあるかを感じる。

(委員)

29 ページの「生きる力を育む教育の推進」の部分で、舞鶴市の教育振興大綱に沿ってと書かれていたので、内容を確認させてもらった。その中で、今の教育に対する問題等を反映するようなことも盛り込んでいただき、様々な子に対する配慮と、子どもが安心して教育を受けられるという言葉が入っており、安心した。そういう言葉を、この(4)に入れていただきたい。

ふるさとを愛する子どもという言葉も入っているが、「生きる力」も「ふるさとを愛する」ことも、やはり地

域の人達に大切にされたという思いがあつてこそだと思ふ。地域や歴史や文化だけを見て育まれるものではないので、その部分を文章に入れていただければと思ふ。

昨年から、月に1回不登校の親の会を開催している。参加者が増えてきており、この場に来られる方がこれだけおられるのであれば、仕事等で来られない方はどれだけおられるのか、どれだけ把握されているのかお聞きしたい。また、それほど学校が子どもたちにとって安心できる居場所と感じられなくなっているというのは大きな問題点である。この計画の中に「子どもが安心して学べる環境づくり」や、「全ての子供の学びを保証する」という言葉を入れていただきたい。

(事務局)

5年前の計画の時には教育振興大綱はまだ存在していなかったが、今年3月に制定され、教育の関係については大綱に基づいて施策を実施されている。同じことを書くと二重になってしまうので、教育委員会とも協議をしながら抜粋させていただいている。委員の意見の内容については、教育委員会とも相談しながら進めたい。

(委員)

61ページの①、「質の高い乳幼児期の教育・保育の一体的な提供に関する事項」の部分で、認定こども園は質の高い教育・保育を受けられる施設とある。

認定こども園への移行について、普及を図るものとする、とある。これからは認定こども園になっていくと思うのだが、各幼稚園もこれからの幼児教育の在り方について考えているところである。この書き方では誤解を招くところもあり、文言を検討させていただきたいのだが。

(会長)

例えば、どのような書き方がよいのか。

(委員)

「幼稚園教育も支援していく」というような内容。「普及を図る」とあるので、移行を考えている所はよいのだが、幼稚園教育を頑張っていきたいところについては不利になるのでは。

(事務局)

今頂いた意見は良く分かる。今の中身は現計画のままとなっている。当初、現計画を作ったときにこども園のことは想定できていなかったの、大まかな言い方をしていたのだが、今年度より認定こども園へ移行する計画が上がった段階で中間見直しをしており、その際、ご意見を聞いている。市としては総合的な普及をしていくスタンスをとっているが、今言われたように保育園、幼稚園の考え方もあるので、「設置者の意向を尊重しつつ」という書き方にさせていただいた。提示いただければ、見直しさせていただく。

(委員)

保育園の場合、こども園の制度でいうと、幼稚園教育に近づけられる、両方の制度を併せ持つという意味で選択肢が増えるというのは、保護者にとっても良い環境であると感じる。

10月から無償化となり保護者にとっては選択肢が増える。保育園、幼稚園、認定こども園でできるだけ差異が出ないようにしていく流れであるが故に、受け入れ態勢を整えないといけない部分は、今後さらに支援をお願い

いしたい。

第4章の項目1に、前回では環境の整備が入っていたが、今回それがなくなっているとの説明があった。第1回会議の際に、質の向上や職員の研修等、人がない中でより良い環境を整えていく部分で、処遇の改善や子育て環境の向上として国の配置基準以上の組み立てや、施設の充実・整備改修について、環境という言葉をどれだけ書けるかは別として、環境を整えていく方向性について組み立てをしてほしいと申し上げた。意見整理でも取り上げていただいた中で、逆の方向に走られたのか、先ほど言われた教育振興大綱のなかに保育園の部分も含めて記載があるから省いてあるのか、方向性として伺いたい。

(事務局)

保育環境の関係について、具体的な事業の取り組みとしてどこまで落とし込むかという話になってくるが、こちらの実施計画や今後の量の見込みを書き込む中では、具体的な形で書き切れていない部分があるので、その視点でもう一度整理させていただきたい。

(委員)

表現方法としては、大まかなりともその方向性を出していただきたい。今回の計画は非常にきめ細やかなところまで配慮いただいて、子育て環境等細かく記載いただいているところもあるが、大きなお金を頂いている部分については、どのような方向性になるのか、なくなるということではなく、継続もしくは充実の方向性が出るような全体的な流れにさせていただきたい。ぜひ検討いただきたい。

(委員)

素案を読んでいると、施策の1や2の部分で、地域子育て支援拠点という名前がたくさん出ている。今までやってきた事を後押ししていただいていると思うものもあれば、今までやったことがないことを地域子育て支援拠点が担わなければならないのか、期待されているのか、色々なことが見えてくる。

25ページでは、ファミリー・サポート・センターとICTの活用という部分があるので、従来のものから少し発展したものを盛り込んでいるところが所々見られるが、具体的に事務局から「これが新しい盛り込み」という説明があれば分かりやすいのだが。

(事務局)

次期子育て支援拠点の新しい役割としては24ページに記載している。

主な取り組みの方向のところ、「孤立しがちな家庭へのアプローチ」ということで、来ていただくだけではなく、知らない・知っていても出て来られない方々に対して、家庭訪問などで出向いていく、地域と繋がるきっかけを作っていくことや、2つ目「妊娠期からのアプローチ」として、生まれてからではなく、その方々が子どもがいる暮らしをイメージできる、ここに来ればよいと思っていただけるように、妊娠期から繋がっていくような役割を果たしていただきたいことを書いている。

ファミリー・サポート・センターについては、Societyの中でも議論になっており、まかせて会員とおねがい会員が共助の役割で成立している。SDGs、持続可能な社会を目指す上でポイントになる部分を担ってきていた。その役割にICTを活用し、スマホでまかせて会員を検索する等、デジタル的なものも研究していくという趣旨で書かせてもらっている。

(委員)

ファミリー・サポート・センターはまさに共助の世界である。地域の助けがないとなかなか子育てできない方が舞鶴では増えてきており、日々ニーズに応えようと努力はしている。そこに ICT を入れる話が立ち上がり、オムロンや子ども支援課と協議しているが、実質どう運営できるかはまだまだ未知である。ここにあるように研究段階で、お互い情報を提供している段階である。積極的にスマホやデジタルでやり取りできるのはまだ遠い未来だと認識している。

(会長)

虐待の転居のケースで、全国ネットで引継ぎができない。いくらきちんと向き合っただけで情報をやり取りしていても、府県によって非常に温度差がある。温度差をなくすために何をしないといけないかとなると、結局デジタル化の問題が出てくる。少なくとも児童相談所のような関係機関が同じ情報を共有できるような連絡網を作る動きがあるようだ。一定年数かかって進行したときに、市町村レベルもその対象になってくると思う。言われるように時間はかかるかと思うが。

(委員)

全体の構成として、21 ページに体系が載っているが、第5章の「確保等に関する計画」が取ってつけたようで、関連が良く分からない。全体的な大きな計画があり、第5章から具体的な数字を上げなければならないので上げておられるのだと思うが、そのあたりの繋がりが良く分からない。説明がないと分かりにくい。

先ほどの委員からの SDGs の意見についても、私もそのように感じている。全部を入れるのは難しいが、市民は SDGs とこの計画をどう関連づけるのか分からないと思う。一部でも SDGs をベースとして考え方をに入れていただくと、市民もイメージできるのでは。見るのは市民なので、市民に分かりやすい書きぶりをしていただくとありがたい。

(事務局)

今指摘いただいた意見を元に分かりやすい表現等、修正していきたい。

(委員)

どの世代も子育てに関わる、ということが書かれているように感じた。特に25 ページに「共生型」という言葉が出てくるが、子育て支援の中にシニア層を巻き込むことが盛り込まれていたり、地縁という言葉が出てきたり、地域ぐるみである。

私自身、乳幼児とその家庭に支援しているので、その連携を具体的に想定しやすい立場にあるが、他の委員は素案を読まれた上で自分のセクションの中でどのように捉え、実現していくためにどのような協力ができるかと考えておられるかお聞きしたい。

(委員)

これまでの計画の中で高校生は空白の3年間ではと感じている。就職や進学でほとんど外へ出てしまうため、地域における最後の教育機関である。その中で地域との協働による高校の魅力化を図りたいと思っている。

高校は自分のキャリアや将来を考える重要な時期であり、その時に地域のことは自分たちで考えていくという当事者意識を育てたい。

今回の策定の中で高等学校が幾つか入っているが、どうしていけば地域の中に入っていけるかは私達の課題でもあり、ぜひ地域の中に受け入れてもらう機会になればと思う。

(委員)

29ページに学校のことは教育振興大綱にとあるが、読まれるのは若い父親、母親ということか。育てる子どもはこうだということが書かれているかと思うが、見通し・流れがあり、最終的にこのような子どもに、と思うところをどこかで書いていただくほうがよい

ふれあい交流でお世話になっており、子どもたちとその保護者が来ているが、あまり中学生と会う機会がないようで、「中学生も意外と頼りになる」「こんなことを考えているんだ」と感じていただいている。乳幼児の保護者も10年後には学校で保護者になるので、流れとして非常に良いと感じている。

学校でも家庭の問題が多く、親が親として機能していない。家庭が安定していない子どもに進路を考えさせるのは無理である。小さい時から、見通しを持って子どもを育てていくという親を育てるためにこういった支援は必要であるが、支援というより見通しをはっきり持たせるということを書いていただけたら。学校のことは学校で、ではなく、流れとして子どもが大人になるまで舞鶴ではこういう子どもを育てていくということがしっかり分かるプランにしていきたい。

(委員)

局所的な意見になるが、小学校1～4年生まではまだ子どもだと感じるが、5、6年生になると思春期を迎え、大人を批判的な目で見たり、物事を斜めに見始めたり、放課後児童クラブで支援員が困っている。学校に対してもどうしたら良いかと相談がある。困り感を市にも相談している。世の中では6年生まで放課後児童クラブで丁寧に見ていくとなっているが、実際は人集めも含めて大変な状況であると聞く。線を引いてくれればよいと言われながら相談される。本当はおじいちゃんおばあちゃんが思春期を迎えた孫を見るのが良いと思うのだが、クラブで見てほしい、と人任せ的な姿勢が見える。支援員の苦労が思われる。

虐待について、親元を離すべき子どもでも、入所する施設がないために親にチャンスを与えざるを得ない厳しい状況があると耳にする。何を最優先すべきか答えは決まっているが、なかなかその答えに辿り着けない苦しさがあり、行政の力が必要で、学校現場は力が足りていないと感じる。

(会長)

虐待の話が出たが、相談件数が約16万件ありそのうち親子分離となるのが3.4%くらい。本来は家族の中で育ちあうのが最善の利益となっている。子育てを担う大人が孤立感を感じている。なかなか大人でも見通しが持てない状況の中で、子どもたちが夢を持って生きていくことが出来ない。色々な立場の者が知恵を絞りながら作っていくしかないと感じる。

(委員)

学校だけでは力が足りないと言われていたが、学校に丸投げしている様な書き方に感じる。学校だけでなく今回の計画のように地域で支えていく、サポートするものがあるとよいのでは。

思春期に入り悩んでいる子どもたちは、信頼できる第三者を求めている。縦の関係が良いが、学校に入ると皆横並びで縦の関係が作れない。昔は大きいお兄ちゃんお姉ちゃんに教えてもらう関係が自然にあったが、現在はそれが無いのが問題。

他市では児童館があり、そこで多世代の子ども同士が触れ合えるが、では舞鶴でも作るのかというと難しい。子育て支援拠点がそういう場になるのでは。未就学児に限らず、高校生までの子どもが来れるような、開かれた子育てひろばというのを今後方向性として考えていけたらと思う。

(委員)

今の高校は、入学が決まったらすぐクラス編成のテスト、1年生で2年生からのコース選択、その次は就職か進学かを決め…、昔我々の時はもっとゆったりしていた。平成の30年で社会が厳しくなったと思うのだが、生きづらい社会になったと思う。

委員も言われていたが、昔あったものを再構築する形だと思う。自然と地域で子育てしていたものを、30年でこの国が崩れてしまい、それをもう一度作り直すという壮大な計画である。

仕事が休みの平日に、スクールガードの方と下校する子どもの姿を見かけるが、その触れ合いを見るとホッとする。家では言えないことも、他人にはポロっと本音が言えることもある。家でも学校でもない場所が作れるし、スクールガードの方も、子どものためもあるが時間が出来て地域のことをしようとしてくれている。

共生と言うが、もっと気軽に、自分ができる小さい時間にやれる範囲のことを少しずつ積み上げていけば、もっと良い社会になる。

学校の楽しさを感じてほしい。勉強は嫌だが、友達にも会えて面白い、そういう学校になっていけば良いと思う。

(委員)

先ほど放課後児童クラブの支援員の大変さを言っておられたが、本当に大変な時代になってきた。

アンケートを実施された中に、6年生まで預かってほしいという意見が多くあった。現に、4年生になればクラブへ行けない保護者の不安、また6年生まで行きたいという子どもの期待感等、たくさん伺っている。

今後の見通しで放課後子供教室を舞鶴市も行っていくべき時代になってきたのでは。人手不足、教室の不足もありなかなか実施が難しいことと思うが、保護者のニーズに応えるためにどうしていくか、舞鶴市は今後どのようにされるのか。6年生まで受け入れられるような施設、支援員の確保を共に努力しながら、少しでもニーズに応えられるようにしていただきたい。

子育て環境日本一を目指されるならば、小さいところから一つずつ拓いていただきたい。ぜひ検討、回答をお願いしたい。

(事務局)

放課後子供教室については、都市部では放課後児童クラブと一体型で実施されているところもあり、研究していかなければならないと感じている。

放課後児童クラブは地域単位で実施している。時代とともに様々なニーズが出てくる。地域により子どもの数、受け入れ体制に格差があり、地域の中でしか調整できない部分がある程度、東、西、中でならずような、時々のニーズに応じた形で柔軟に考えていかなければならないと感じている。ここで明確に約束できないのは心苦しいが、今後とも取り組んでいきたいと考えている。またお力添え頂きたい。

(会長)

今の委員の意見に賛成だが、現実には支援員の質の問題等あるかと思う。

今日示された舞鶴っ子育成プランの素案だが、従来の計画の一定程度の変更は時代の流れである。そういう意味では放課後児童クラブの問題も同様である。今後に向けぜひよろしくお願いしたい。

②今後のスケジュールについて

資料に基づき、事務局より説明

③その他

(事務局)

あそびあむの有料化について、子ども・若者支援会議の委員の皆様にご意見を頂戴したい。
次回3月の開催時にお伺いさせていただく。

3. 閉会

(会長)

委員からはたくさん意見を頂いた。事務局におかれては適宜修正等いただきたい。細かいところについては私に一任頂きたい。よろしいか。

以上をもって、本日の会議を終了させていただく。ありがとうございました。

以上